



熊本県酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈 部 洋

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

会員・酪農家・関係機関の皆さまには、旧年中のご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内経済は内需主導で回復が進み、特に個人消費と設備投資が成長を支え、全体として経済は堅調な推移となりました。しかし、人口減少や輸出の伸び悩み、賃金上昇のペースが物価上昇に追いつかないなど、構造的な課題が成長を制約しています。

世界に目を向けますと、世界経済は緩やかな成長が見られるものの、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、米中対立、中東情勢の不安定化などの地政学的リスクをはらんでおり、地域別には米国での利上げ政策の影響緩和、欧州でのエネルギー価格や財政課題、中国経済の成長鈍化など警戒が必要な状況です。

酪農を取り巻く環境は、昨年10月に全国の指定団体に生乳を出荷する酪農家戸数が1万户を割り込むなど、昨今の環境悪化の影響が出ています。具体的には、飼料価格の高止まり、仔牛の販売価格の低下、機械、水道光熱費など諸経費の増加などです。熊本でも4月に390戸だった酪農家戸数も現在は375戸と15戸減少しています。

県内では、有数の酪農地帯への半導体関連企業の進出が著しく、巨額の経済効果が期待されています。しかし、周辺地域の農地転用による牧草地不足や家畜排せつ物への対応、交通渋滞、人件費の上昇など酪農経営への多大な影響が懸念され

ています。食料自給率のアップや食糧安保の面からも国、県と協力しながら、酪農をしっかりと継続できるよう酪農生産基盤の維持に向けた取り組みを行います。

このようななか、去年は県酪連創立70周年、らくのう牛乳発売50周年を迎えることができ、11月2日には阿蘇ミルク牧場での「らくのう牛乳発売50周年感謝祭」、11月20日には多くの関係者をお招きし、「県酪連創立70周年、らくのう牛乳発売50周年の記念祝賀会」を開催することができました。改めて皆様にこの場を借りまして感謝申し上げます。この歴史の重みを胸に、私たちはこれからも、酪農業の未来を築くための施策に取り組んでまいります。特に、持続可能な経営を実現するため、経営効率化や収益改善につながる支援策の強化、地域やそれぞれの経営に応じた生産体制の整備を推進し、競争力のある酪農業を目指します。

本会の令和6年度の業績は、11月までの事業高で495億円と前年比101.2%、税引前利益も前年比113.3%と順調に推移しております。乳業事業で学校給食向けなど新規取引先の拡大や乳飲料やデザート製品などが好調に推移いたしました。海外事業につきましては、新たな輸出先拡大へ積極的な取り組みを行っております。また、昨年7月には熊本工場に増設した冷蔵倉庫も完成し、更なる事業拡大に向け取り組みを進めています。

今後も熊本県の酪農発展のため、皆様とともに役職員一体となり事業に邁進して参ります。

新たな年が、皆様にとって希望と成長の年となることを心より願っております。厳しい状況が続く中でも、共に支え合い、熊本の酪農業を未来へと繋げてまいりましょう。

本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願申し上げます。



熊本県知事

木村 敬

明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会におかれましては、日頃より県政の推進に御理解と御協力をいただきますとともに、酪農・乳業の振興を通じ地域経済の活性化と産業の発展に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。

昨年、貴会は創立70周年を迎えられました。熊本県が全国第3位の生乳生産量を誇る西日本最大の酪農県で、本県農業産出額の1割を占める主要品目となっていることは、70年間、酪農家の皆様と貴連合会をはじめとする関係者の皆様がたゆまぬ努力を続けてこられた賜物であると深く敬意を表します。

さて、近年の不安定な世界情勢や記録的な円安の中、日本の食料安全保障を担う本県農業への期待はま

すますます大きくなっています。酪農情勢につきましても、飼料や資材価格の高止まりや飲用牛乳の消費低迷等が続いており、経営に大きな影響を及ぼしています。

そのような中、酪農家の皆様の土地基盤に立脚した自給飼料の生産拡大や安全・安心な生乳の生産等は、国土保全や食料の安全保障に大きく貢献されているものと認識しています。また、生産から販売に係る様々な事業への貴会の積極的な取り組みは、酪農情勢を良い方向へ導いていくものと期待しております。

私は知事就任時から、熊本県の豊かな農畜産物のポテンシャルを最大限に発揮するため、「食のみやこ熊本県」の創造を掲げてまいりました。その第一歩として、昨年10月に庁内組織体制の強化を図るため「食のみやこ推進局」を新たに設置し、高付加価値化等による稼げる農林水産業の実現に向けて取り組みを始めたところです。熊本県の重要な産業である酪農につきましても、国の施策とも連携し、飼料価格対策、生産基盤対策、消費拡大対策等をしっかりと進めて参ります。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸、そして新しい年が更なる飛躍の年となりますことを心から祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



全国酪農業協同組合連合会

代表理事会長

隈部 洋

新年明けましておめでとうございます。

熊本県酪農業協同組合連合会の会員、酪農家の皆様、そして役職員の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和7年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は能登半島での地震や台風10号による暴風雨、豪雨災害が相次ぎ、多くの酪農・乳業関係者が影響を受けました。改めて被災された酪農・乳業関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、今年は災害のない平穏な一年となることを願っております。

さて、我が国の酪農情勢につきましても、乳価は上昇したものの生産資材・燃料価格の高止まりや副産物価格の下落は酪農経営を圧迫し、酪農家戸数の減少に歯止めがかからない状況となりました。

このような中、6月に食料・農業・農村基本法が改正され、基本理念に「食料の安定供給の確保」が掲げられました。将来、海外からの食料や原料等の輸入がままならなくなることが考えられる中、国内の生乳生産基盤を維持することが重要になってくると思います。そこで、次期酪肉近における生乳生産目標については780万トン維持できないかと考えています。輸入乳製品の一部を流動的に国産に置き換えることで安定的に生乳を生産できる体制にし、「思い通りに搾乳できる」環境を整え、酪農家のモチベーションを高められればと思います。食料安全保障の観点と持続可能な酪農経営の構築に向け、今後とも、日本酪農政治連盟や他団体と協調しつつ、酪農対策の一層の充実について政府・与野党に強く要請してまいります。

こうした中、私ども全酪連は、本年4月からは第十三次中期事業計画の中間の年がスタートいたします。引き続き「販売事業の強化」「業務効率化」を柱として、「NEXT STAGE 全酪」を合言葉に次の段階へのステップアップを目指し、会員の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、持続的な酪農生産基盤の構築に尽力する所存であります。

最後に、熊本県酪農業協同組合連合会と会員の益々のご発展と、酪農家の皆様そして役職員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事会長

中村 隆馬

新年あけましておめでとうございます。

また日頃より、熊本県の酪農家の皆様並びに熊本県酪連役職員の皆様には、本会の事業推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は8月に台風10号が九州に接近上陸し、牛舎施設等の被害や生乳廃棄にも見舞われました。また、11月には国内初の発生となるランピースキン病が九州で確認され、生乳出荷乳量の減少や家畜の移動制限、患者の隔離、殺虫駆除などの対応に追われ、経営の厳しい中に大変なご苦労をされたと思います。改めて、酪農経営を守るために家畜防疫の重要性を再認識させられたところでもあります。また、台風被害にあわれた方、感染農家の皆様へのお見舞いと被害を食い止めるための関係各位のご努力に感謝申し上げます。

我々酪農家はかつて経験したことがないような厳しい酪農経営環境は依然として続いており、飼料、生産資材、燃料等の生産コストは高止まりしたままです。

一方で牛肉の消費減退から副産物価格も下がったまま、ただちに経営が好転することは考えにくい状況にあります。

このような中、本会は九州酪農の存続のために3年間連続となる乳価値上げの申し入れを行いました。2回にわたって乳価値上げとなったにも関わらず、酪農廃業のペースは令和5年度と変わらないことやコロナ禍に借入した運転資金の返済がこれから始まる中において、返済できるほど利益が得られていない事について理解を求めました。再三におよぶ食品や生活資材の値上げにより牛乳・乳製品の消費も減退しており、乳製品在庫の積み増しも懸念されますが、酪農経営環境は将来が見通せるほど好転していないことを訴えました。

生乳販売においては、系統外の生乳流通の増加からその影響を無視できなくなっております。九州においても系統外の生乳で製造された牛乳が需要期に欠品し、不需要期には売場に戻るなどの影響を受けています。農水省主催の生乳の需給等に係る情報交換会では、不需要期に牛乳を安売りして需給調整するのではなく、系統内と系統外で平等に加工を発生させる需給調整について意見しているところであります。

最後になりますが、年頭にあたり皆様方の御健勝、御多幸と九州酪農の繁栄を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



熊本県酪農青壮年部協議会
委員長

中村 俊介

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の事業運営につきましては、多大なご理解とご協力をいただいております事に心より御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと物流に係る運賃の値上げによる経費増や為替の影響による生産コストの上昇と依然として酪農情勢は厳しい状況が続いております。また、インフレで乳製品の消費が減少傾向にあるため一般消費者に対して理解醸成活動が重要となります。その中で「牛乳の価値」を伝えて、一般消費者の購買意欲を上昇させることが大事だと感じております。

当協議会では、5月の総会で役員改選を行い、新執行部体制で運営がスタートし、前年に引き続き、一般の消費者への理解醸成や酪農家の知識の向上に注力し活動してきました。6月の「ちちの日に牛乳を贈る

う！キャンペーン」や11月の「2024くまもと農業フェア」では、一般消費者を対象にLL牛乳を中心とした理解醸成グッズ等の無料配布を実施し、「牛乳たくさん飲みます。」や「これからもお仕事頑張ってください。」と消費者の方々から温かい言葉をいただき、理解醸成の大切さとやりがいを感じることができました。また、10月下旬には「酪農ふれあい体験交流事業」で約50名の年長の園児を対象に実施し、園児達の笑顔や牛との触れ合いを通して、子供たちに酪農や乳牛の魅力を伝えることができました。

さらに、9月には酪農家の知識向上を目指して「夏季酪農大学」を開催しました。当日は、「酪農業を取り巻く最新の税制」と「土づくり・草づくりのポイント～安定した自給飼料生産に向けての考え方～」の2講演を行い、税の話から自給飼料の話と今後の酪農経営に活用できる話ではなかったでしょうか。

酪農家戸数の減少および生産基盤の弱体化等、今後も懸念される事が多数あります。その様な中でも、消費者の方々一杯でも多くの牛乳を飲んでいただけるような理解醸成活動がより一層重要であり、各関係組織と協力し情報交換等しながら活動していきたいと思っております。

最後になりましたが、本年も皆様方にとって良い年となります事を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農政治連盟

委員長

隈 部 洋

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃より当連盟の活動に対し、会員の皆様にはご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年酪農乳業においては需給緩和傾向が続きました。物価上昇に伴い、一般消費者の購買意欲が低下し牛乳の購入数量は減少しています。酪農を取り巻く情勢については、一昨年度までの2年連続した乳価改定により復調の兆しは見えてきましたが、生産コストの上昇に追いついておらず、依然として厳しい状況です。ウクライナや中東等の海外情勢不安や円安の進行により、配合飼料・購入乾牧草価格や生産資材価格等が高止まりしました。また、子牛販売価格は低迷しており、酪農経営は危機的な状況が続いています。全国の酪農家戸数が1万戸の大台を割り、このまま経営環境が改善されなければ、生産者の廃業が一層加速し、酪農生産基盤の崩壊が危ぶまれます。

このような中、当連盟におきましては、酪農政策の拡充を求め、関係団体と連携し、様々な要請活動を行って参りました。また、昨年引き続き、フードパ

ンク熊本へのLL牛乳の贈呈や新聞広告掲載による消費者への理解醸成活動など積極的な消費拡大への取り組みを展開しました。

また、昨年7月の全体委員会は一般社団法人Jミルクの内橋専務理事を講師に招き、酪農を取り巻く情勢について見識を深めました。11月に農水省への訪問と本県選出国會議員への要請活動を予定していましたが、衆議院議員総選挙の実施に伴い延期しました。本年3月に上京し、酪農経営への支援および総合酪農経営支援対策の継続と拡充の要請を行って参ります。

昨年10月に実施された第50回衆議院議員総選挙におきましては、本連盟推薦候補4名全員が当選を果たすことができました。皆様のご支援に改めて御礼申し上げます。さらに、本年7月には第27回参議院議員選挙が行われます。本連盟の推薦候補の当選を果たすべく改めて皆様のご支援・ご協力を宜しく願います。

本年も厳しい酪農経営環境打開のため、予算獲得ならびに政策の実現に向け、生産者の声に耳を傾けながら関係機関と協調し、組織運動に尽力して参ります。また、食料安全保障の確保を柱とした改正食料・農業・農村基本法を踏まえ、持続的な酪農経営の実現、厳しい経営環境の中で生産性の高い経営を目指した適正な価格形成や経営安定対策を求めて参ります。この危機的な状況乗り越え将来へ希望をつなげるため、今後とも更なる活動充実に向け、会員ならびに関係者各位のご協力、ご支援をお願いします。

最後は、皆様のご健勝とご発展を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農女性部協議会

会長

内ヶ島 美津代

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

会員の皆様、各関係機関の皆様には日頃より女性部活動に対しまして、多大なるご理解ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

昨年の5月の通常総会において会長を仰せつかりました内ヶ島です。新役員の方々と協力しながら有意義な活動になるよう尽力して参りたいと思いますので、何卒よろしく願います。

さて、昨年の新役員体制のスタートは、6月の「ちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」で県庁・農政局への贈呈式から始まりました。牛乳を試飲された木村知事、北林農政局長から、「濃厚で美味しいですね」と嬉しいお言葉を賜りました。7月には「全国酪農青年女性発表大会」へ参加、9月には「夏季酪農大学」の開講、10月に「酪農女性レクリエーション大会」を実施、「ポッチャ」大会も3回目ということで各コート熱戦が繰り広げられました。参加者も前回は上回り幅広い年代の方に参加していただき、みなさん笑顔で交流を深めながら、日頃のリフレッシュができ

たのではないのでしょうか。

また、消費者を対象とした理解醸成活動を6月にミルク牧場と11月に県農業公園カントリーパーク（農業フェア）で行いました。らくのう教室ではみなさん酪農の話に熱心に耳を傾けてくださり、クイズを交えて小さなお子様にも楽しみながら理解してもらえようにしました。搾乳体験、哺乳体験では多くの方に参加いただき、直接「牛」と触れ合うことで、「牛」の温もりや仔牛の可愛さを実感してもらえたのではないのでしょうか。搾れた時の嬉しそうな顔や、仔牛がミルクを飲んでくれた時の感動する姿を見ると、実際体験して酪農を知ってもらうことはとても大切なことだと感じました。活動を通して「牛乳が美味しい。」や「応援しています。」といった言葉、「牛」と触れ合い感動する消費者の姿は酪農家として活力になり、これからも「安心・安全」でおいしい牛乳を届けていきたいと実感しました。

今年は2月20日開催予定の「酪農女性の集い」に、南阿蘇村で有機栽培米作りをしている「O2Farm」共同代表の大津愛梨氏を迎えて記念講演を計画しています。農業の新しい価値や魅力について活動・発信が続けられている方で、同じ農業に携わる者として共鳴、参考になるお話が伺えると思いますので、多数のご参加をお待ちしています。

酪農を取り巻く環境は依然厳しいものです。女性酪農家は今何をすべきか、皆さんと共に考えながら女性部の活動が意義のあるものになるよう努めて参りたいと思います。新しい活動案がありましたら是非ご提案下さい。

最後になりますが、この新しい年が佳き年になるよう心より祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県乳牛改良同志会

会長

西本道靖

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より同志会活動に対しまして、ご支援・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年の国内経済はインバウンド需要の回復や、企業の設備投資が活発化したことによりGDPがプラスに転じた一方で、物価高が家計を圧迫しております。酪農業界においても飼料・資材・燃料価格の高止まりに加えて、乳肉仔牛の価格下落など厳しい状況であります。

我々同志会としましては、乳牛改良はもちろん、若い後継者が酪農に魅力を感じてもらえるような活動と組織団結の為に活動を行ってきました。オール九州ブラックアンドホワイトショウ、ベビーショウ、県共進会、九州連合ホルスタイン共進会において、若手の活躍が目立ったことは大変喜ばしいことです。その中で

11月に開催されました九州連合ホルスタイン共進会では、本県からは未經産牛17頭、経産牛22頭の計39頭が出品され、グランドチャンピオンこそ逃しましたが、最高位決定戦で本県出品牛が上位3頭を独占するなど好成績を取ることができました。これもひとえに、会員一丸となって改良に取り組み、切磋琢磨してきた成果であると思っています。また、共進会以外に役員による農水省との意見交換会、青壮年部合同開催となるスポーツ大会（ボウリング）、通常総会を行うなど精力的に活動を行ってきました。

今年は、我々にとりまして大きな目標の年である第16回全日本ホルスタイン共進会が10月に北海道で開催されます。好成績獲得に向けて盛り上げていきたいと思っています。

ゲノミック評価は既に現場レベルで浸透しており、種雄牛についても遺伝的改良速度は目を見張るばかりです。しかし、遺伝的能力を存分に発揮させることができるかどうかは、日々の飼養管理にかかっています。だからこそ基本に忠実に、また牛群検定や血統登録、ゲノミック評価などを活用しながら、飼養管理技術の向上を目指していきたいと思っています。

最後になりましたが、本年も、昨年同様関係各機関の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農部長連絡協議会

会長

伊豆永芳弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より当協議会の活動に対しましてご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、インフレの抑制や金利引き上げの影響で経済成長が鈍化している中、特に、米国やユーロ圏では、金融政策の引き締めが続いて消費や投資活動に対する抑制的な影響を受けました。また、中東地域ではガザ地区を中心にイスラエルとハマス（パレスチナ武装組織）との間で激しい衝突が続いており、各国が和平に向けた努力を行っていますが、根本的な解決には時間がかかると見られます。

酪農・乳業を取り巻く情勢は、依然として飼料価格の高止まり、燃料・資材価格の高騰や副産物価格の下落などが続き、昨年の乳価改定により復調の兆しが見えてきたものの、酪農経営は依然として厳しい状況が

続いています。また、昨年の10月に全国の酪農家戸数が1万戸を下回り、年々減少する酪農ヘルパー要員や担い手の確保など、やる気向上につながるサポート体制の構築が重要視されます。

そのような中、本協議会としましては、例年、熊本の酪農経営充実を目標に様々な活動を展開しております。昨年1月には視察研修として、北海道の上幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合との意見交換会を実施しました。3月には熊本県酪農専門農協協議会との合同研修会として、九州農政局の渡辺次長に「酪農をめぐる課題と対応策について」と題して講演いただきました。12月には、九州生乳販売農業協同組合連合会の種島常務と有村部長を講師に迎え、国内の販売状況や季節別乳価率などについてご教授いただき見識を広めることができました。

今後も本協議会では、酪農業の恒久的な発展と酪農経営の安定を図るため、酪農生産者の一層の団結を目指し、今年もらくのうマザーズ及び各協力組織と連携し、酪農・乳業に係る情報収集や課題解決に向け邁進してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、今後も変わらぬご理解ご協力を賜りますとともに、本年が皆様方にとりまして倅多き良き年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



熊本県酪農ヘルパー利用組合

組合長

岩根正始

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本利用組合の事業に対しまして、格別なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は1月1日の能登半島地震から始まり、8月には宮崎近海を震源とする地震、更に日本各地での猛暑、豪雨被害など自然災害に悩まされた年となりました。酪農情勢につきましては、混乱する世界情勢や為替の円安傾向の影響から、飼料穀物、肥料、生産資材、燃料価格が高騰するなど生産コストの上昇、県内への企業進出による飼料作物面積の減少など酪農経営は依然厳しい状況が続いています。

このような中、組合員の皆様方のご理解、ご支援により、地域に密着した事業として酪農ヘルパーの育成・指導に自助し、酪農家の周年拘束労働の改善と、定休日を設け魅力ある酪農経営の確立を目指すため、定期的な休日の確保、傷病等発生時に速やかに対応することで、酪農経営の一助になることを認識し役職員一同努力しているところです。

現在、本利用組合の人員につきましては、本年度1名採用し、22名体制で運営しており、厳しい雇用情勢の中、県内外で開催される募集イベントへの参加、農業専門応募サイトの活用、各学校への説明を実施するなど酪農ヘルパーに対する認知度向上と要員確保に努めております。

更に職員育成を図るため、(一社)酪農ヘルパー全国協会の事業を活用し、新人酪農ヘルパーを対象とした初任者研修に1名派遣しました。また、指導力やコミュニケーション力を高めることにより職場全体の活性化を目的に中堅酪農ヘルパー研修に2名の職員が参加予定です。

当組合に対する申込需要は年々増加傾向にあります。皆様には当利用組合の経営状況改善のため、年会費の徴収にご協力いただき感謝申し上げます。来年度は、受益者負担の観点から利用料金の増額を検討しております。酪農ヘルパー利用組合の事業継続のため、利用者の皆様にはご理解いただきますようお願い申し上げます。

また、酪農ヘルパー要員不足により、申し込みをお断りせざるを得ないことも多くあり、大変なご迷惑をお掛けしておりますことを心苦しく思う次第です。この状況を少しでも改善するため、臨時酪農ヘルパーへ登録していただける方、酪農ヘルパーに興味のある方をぜひ、当組合役員までご紹介頂けると幸いです。

今後も酪農ヘルパー事業の充実を図り、皆様の負託に応えていけるよう努めて参りますので、ご理解の程よろしく願います。

最後に、本年が皆様にとりまして健康第一とした稔り多き年でありますように、ご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



熊本県酪農専門農協協議会

会長

山田政晴

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、年明け直後の能登半島地震にはじまり、世界的な異常気象による洪水等の災害が多発しました。私たちは改めて災害への対応や地球温暖化など環境問題に対する取り組みの重要性を認識させられました。また、社会経済は為替変動や政権与党の過半数割れ、海外ではアメリカでの政権交代など大きな変化が起きました。特にロシア・ウクライナ戦争の長期化をはじめ各地での紛争も多発し熾烈化を極めています。一方、地元熊本では大規模半導体工場の稼働と第2工場の建設も含め、水や農地の問題、極端な交通渋滞など課題も拡がっており先行きが懸念されています。

酪農・乳業関係においては、飼料価格は高止まり、エネルギーや資材価格の高騰、子牛価格の低迷などに

より、乳価は上がったものの酪農経営は依然厳しい状況が続いています。また、生乳需給の不安定さも未だ解消には至らない状況です。国・県や関係組織を挙げて、その対策に尽力されているところですが、一方で酪農家の廃業も増加し減少に歯止めがかからない現状となっています。

こうしたなか、当協議会では研修会や各種講習会等を通じて課題や現状への認識を深めるとともに、将来も安心して酪農が続けられる組織環境を目指して、「熊本県酪農組織整備推進協議会」により専門農協10組合による合併、および1県1酪農協の実現に向けて各会員の協力による取り組みを進めているところです。

今後も、想像できない環境の変化や状況悪化は必ずやってきます。そのためにも私たちの酪農組織は、より強固で盤石なものでなければなりません。いざという時も安心して酪農業を営める組織体を目指して協議会活動の取り組みをさらに強化してまいります。

引き続き皆さまのご指導ご協力をよろしく願いたします。

酪農家の皆さま及び関係者の皆さまにとって、本年がより良き年となりますよう御祈念を申し上げ、新年のご挨拶と致します。



熊本県乳用牛群検定組合

組合長

山口 孜 朗

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、組合員の皆様及び関係各位におかれましては当組合の事業に対しまして、格段の御支援御指導並びに御協力を賜り心より感謝申し上げます。

去年を振り返りますと、元日から石川県の能登半島地震が起こり、翌日には羽田空港衝突事故が起こるといふ波乱の年明けでした。10月には石破政権が発足し、明るいニュースではパリオリンピック、パラリンピックで多くの日本人選手が躍動し、ドジャースの大谷翔平選手がワールドシリーズ制覇とシーズンMVPを成し遂げました。

乳用牛の飼養戸数は主に小規模層で減少し、大規模化が進みながらも全体の飼養頭数は減少傾向にあります。酪農経営における労働時間は他の畜産や製造業と

比べ長い状況であり、飼養管理の見直しや機械化など効率を追求した取り組みが必要です。補助事業を活用し省力化機械の導入や、人手不足には特定技能在留外国人の雇用等様々な方法がございます。

検定は牛個体毎の能力を評価することで飼料改善や繁殖管理に役立ち、経営効率向上に貢献する重要な役割を担っています。国が普及拡大に努めているので、検定農家のみが対象の補助事業もございます。通常の検定は夕・朝の2回立会のA4検定ですが、夕・朝交互に1回のみ立会で検定ができるAT検定もあり、今年度もATタイマーの購入助成や、6カ月間検定料金が無料となるお試し検定も実施しております。検定成績等は郵送される紙媒体のものだけでなく、パソコンやスマートフォンでも確認できる繁殖台帳Webシステムというものもあります。各牛の分娩予定や発情予定等様々なデータが確認でき、指導員や獣医師、受精師ともデータの共有をすることができます。

最後になりますが、1戸でも多くの農家の方に検定へご加入いただき、得られる成績を利活用することで高品質・低コスト生産の経営改善、皆様自身の生活の安定につながっていただけたら幸いです。

年頭にあたり、酪農家・検定組合員並びに関係者の皆様にとって今年が実り多き年でありますよう祈念し、新年の挨拶といたします。

